

# 住宅の耐震化と家具・家電製品の転倒防止

## 1 住宅の耐震診断・耐震補強

阪神・淡路大震災では家屋の倒壊による死者が約8割を占めました。まずは耐震診断を受け、自分の家が安全かどうかを確かめましょう。

◎昭和56年以前に建てられた建物は、古い耐震基準で建てられているため、耐震診断を受けましょう。また、昭和56年以降に建てられた建物でもバランスの悪い建物や地盤が悪い敷地に建てられた建物、壁や基礎にひび割れがある建物なども耐震診断を受けましょう。

また、耐震診断については、福岡県が主催する講演会を受講した建築の専門家が「[耐震診断アドバイザー](#)」となり、必要に応じて現地調査を実施することとなっています。詳しくは、「[はじめよう 住まいの耐震化](#)」をご確認下さい。



## 2 家具の転倒防止

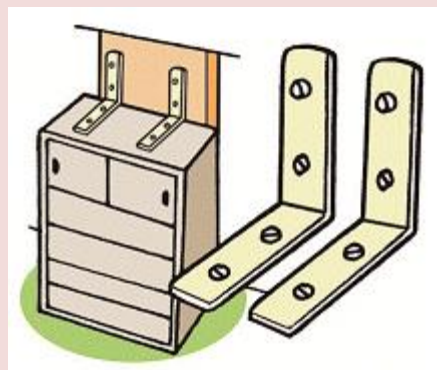
建物が無事でも、家具などが転倒すると、下敷きになってケガをしたり、避難経路を塞いだりして危険です。

◎タンスや棚はL型金具などで壁の棧や柱に固定しましょう。

◎引き出しや観音開きの扉にはストッパーなどを取り付け、中身が飛び出さないようにしておきましょう。

◎扉がガラスの場合はガラス飛散防止フィルムを貼っておきましょう。

◎壁や家具などによって適した方法が異なります。自分の家や家具などにあった方法を選びましょう。



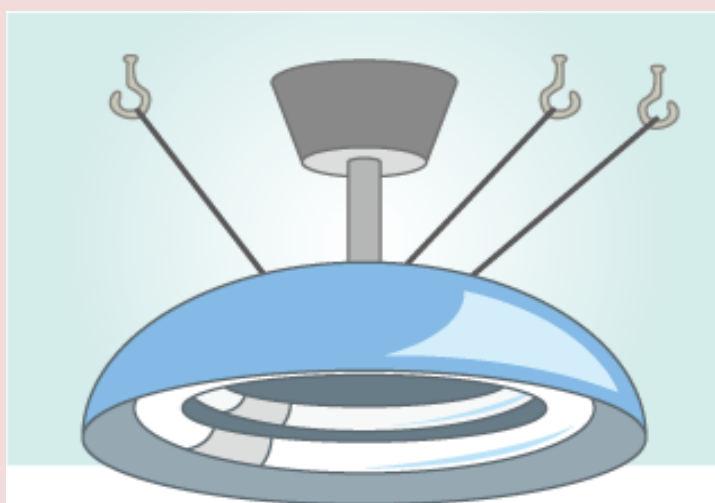
### 3 家電製品の転倒防止

家電製品が転倒したり、照明器具が落下したりすることも大変危険です。

◎台にテレビやパソコンを載せている場合は、金具や耐震シートなどで本体と台を固定し、L型金具などで棧や柱に固定しておきましょう。

◎吊り下げ式の照明器具は複数のチェーンを使い数箇所を天井に止め、固定しましょう。

◎蛍光灯や電球は、割れても飛び散りにくい飛散防止が施されたものに取り換えましょう。



## 4 家具・家電製品の配置を工夫する

家具などの配置を工夫することも有効です。まずは手軽にできることから始めてみましょう。

◎寝室や子供・高齢者の部屋、出入口付近にはできるだけ背の高い家具は置かないようにしましょう。

◎就寝位置を家具から離したり、転倒しにくい側方とするといった方法も考えられます。

◎重量のある家電製品はできるだけ低い位置に置くようにしましょう。

